

第 97 回メーデー中央大会

対話と連帯で築く、平和で笑顔あふれる未来 真の働き方改革で、安心してらせる社会を!

東京都 代々木公園

4 月 29 日、第 97 回メーデー中央大会を東京・代々木公園で開催し、2 万 6300 人の働く仲間やその家族などが一堂に会し、労働条件の改善、人権の確立、平和への思いなどを共有した。出展エリアでは、70 以上の団体が活動紹介や物品販売などを行ったほか、子どもイベントや献血活動、プロ野球選手会の協力によるキャッチボール教室なども行われた。

式典は、斉藤千秋中央実行副委員長（連合東京会長）による開会宣言で始まった。

続いて芳野友子中央実行委員長（連合会長）が主催者を代表して、メーデー創始から 140 年、戦後 80 年が過ぎても争いが止まない現状に触れ、「平和を希求する訴えが広がる中で、労働組合の取り組みは本当に社会を巻き込む共感を得ているだろうか。今こそ一人ひとりがジブンゴトとして平和の実現に向けた思いを一つにし、行動に移すことが大切だ」と述べた。

また、与謝野晶子の歌を引用し、既存の枠組みを超えて共感を呼ぶ「新しいかたちの運動」の重要性を強調し、労働組合がその大きなうねりの中心となるべきだと語り、2026 春季生活闘争については「3 年連続 5%以上の賃上げ率を実現したが、実質賃金がプラス基調に定着するにはまだまだである」と、現状の厳しさを指摘した。さらに今後の展望について「対話を通じてお互いを理解し、尊重し合うことでしか『誰もが平和で笑顔あふれる毎日』は実現できない。すべての働く仲間が笑顔でくらせる社会を築くため、今一度、心合わせ、力合わせをしましょう」と力強く連帯を呼び掛けた。

来賓あいさつでは、政府を代表して高市早苗内閣総理大臣、労働行政を代表して上野賢一郎厚生労働大臣、東京都を代表して小池百合子知事から、それぞれあいさつをした後、出席した来賓各位の紹介が行われた。

最後に、伊藤美幸メーデー常任実行委員がメーデー宣言（案）を提案し、満場の拍手で採択され、式典は草次康孝メーデー常任実行委員のがんばろう三唱で閉会した。

「海員だより」